

教養と生活向上にとりくむ

城元青年学級

毎年龍頭蛇尾に終ってしまふ学習……これが大根占校区の青年学級の実態だった。

公民館も幹部たちも「これじゃ仕方ない、大根占校区は一時中止して、予算は他の熱心な校区にまわそう」とサジを投げようとしている矢先、進んで開設を申し出たのが城元の青年達だった。(団長堀之内 正人 団員二十数名)

県新生活運動指定地区に

大橋部落指定さる

「外の部落が参加しないなら城元の青年だけで」と大なる張り切り方、早速五月九日開講式と併せて、今後の方針を話し合う毎週月曜日に開くので名称を「月曜会」と名づけ発足することになった。

- △学習の目標は、1、本町将来の担い手として、恥かしくない一般教養を身につける
- 2、学ばせようとする、現在の生活をよくすること
- 3、参加は、お互い誘い合い、教養の準備は当番で行う

農地法が制定されたころに比べ、最近では人口増加、町の発展、技術革新などという条件によって農地をつぶす場合が非常に多くなってきたようである。

農地をつぶすときは許可がいります

画的に農地をつぶすよう新しい許可基準が作られることになったわけですが、農地転用許可基準によると、農地を第一種農地、第二種農地、第三種農地と呼んで第三種農地か

「今までの経験で、まさかこんなふうとは思わなかった。全学連が学生の不良化が青年の代名詞に、こんな真面目で意欲のある大部分の青年を育成する事が何より大事だ。城元の青年には全く感心した」と語っている。

な町公民館では、青年の父兄は勿論町民皆さんの今後一層の理解ある協力と積極的な御助言を望んでいる。

同部落は、早くから部落民揃って生活環境の改善に努め、いつ行っても「きれいな部落」として通っていたが、今回の指定によって

1、部落民に生活科学の教育啓蒙がなされる

2、合理的な改善施策が行なわれる



はるかにブラジルの空から

山 添 正八郎

町長始め町民の皆様その後、お変わりございませんか。ブラジル移住に当りましては、大変お世話になりました。紙上より、厚く御礼申し上げます。

私達も、お陰様で、出航以来、三十九日間の航路を終えて、四月九日、午前八時サントス港に元気で上陸しましたので御安心下さい。機橋までバートンと息子さんが、ジョブで迎えに来て、その日の中に、現地に到着致しました。サントスからサンパウロ市まで、八〇〇



〇〇米で、海抜八〇〇米で、サンパウロから現地に、三〇〇〇米で、海抜一〇〇〇米で、米近くあります。

今南半球は秋に入っているわけで、上陸した時は、むしろ暑い程でした。この必要で、日本の十一月頃の気候です。パトンの家は、親子二人ですが、長男は分家して、ここから、一三〇〇〇米で馬鈴薯作りをしており、三男は、町の薬屋に

青年から時間を守ろう

神川校区青年団 M K 生

私は昨年九月部落青年団に入団した団員の一人です。入団以来八月、団体生活をして参りました。その中で私が気づいたことをのべてみたいと思います。それは、まず、団活動で若人らしい会合の時間の厳守です。この時間だけは私達の部落でなく、校区あるいは町、青年団活動の会合でも同じだろうと思ひます。たとえば、夜八時に集合が始まるのに、二〇分、あるいはそれ以上おくれで見える方もあります。最初に集まる方は長時間つぶしてしまふ訳で

◎早期水稲

今月は最高分け時期となるので、最も好条件にあるよう、管理に充分注意する。

昼間はできるだけ浅水にし、地温の上昇を図り止草は今日九日を中心として実施する。

山間冷水田で培土栽培をやるところでは止め草と同時に第二回目を実施する。肥料が切れやすい水田で追肥をやるときは硫酸一〇アル当り四八八を中句ごろ穂肥としてやる。量が多すぎると成熟がおくれ、いろいろの病害虫がややすいので注意する。

◎普通水稲

田植は、三十日苗が適当、肥料は例年硫酸水素の発生する水田(七、八月の高温時)に入ると気泡を生じ根腐れ現象は、ほとんどの硫化水素の発生による)では硫酸根肥料(硫酸、過石、硫酸等)の使用を避け無硫酸根肥料(尿素、溶性燐肥、塩加、等)を使うようにしたい。

なお、未熟な堆肥の使用を避け、できるだけ完熟したものを用い緑肥類は田植の一ヶ月前にすき込むようにしたい。

◎早期陸稲

畑が固くなると、根の働きが悪くなり、地上部が黄色くなるから晴れた日を選んで中耕し、土を乾燥させるように心がける。

第三回目(本葉七枚のとき)やるが同時に土寄せをする。この際稲を強くおさえないよう注意する。病害虫が発生する時期であるから防除に万全を期していただきたい。

早期陸稲では、今まで除草作業に一番多くの労力をかけていたもので、この労力を少しでも軽減するため除草剤の使用展示園を池田校区と、神川校区、の二ヶ所に設置してあります。

同方面の方々は、参考にして下さい。

設置の場所は、池田の方、川南から半ヶ石に通ずる通学道路の入口(半ヶ石に向って右側)で担当農家は、川北部落の大園仲熊さんです。

6月の農作業



◎甘藷

苗立ちの最盛期です。苗立ちを促すようにし、苗をとりつたあと、尿素を撒く。

◎管理

南瓜は敷ワラを急いでウドン粉病にカラセン水と剤をトマトは腋芽かぎに注意し四、五枚目の上

乾燥調整は念入りに

むぎなたねの出荷

麦 なたねの牧獲も大方すみませんが、5月6月は雨量も多いので乾燥調整に充分協力して下さい。例年天候不順で水分過多の麦、なたねが出まわるので、乾燥に注意してください。

2、調整不良のため、等級が落ちないよう必ず唐箕選をする

3、土砂の混入しないよう注意する

4、脱穀後 未乾燥品を吟に入れたまま放置しないこと

5、量目は正確に計ることと麦は正味60キロ、なたねは正味50キロ

参考 34年産、麦なたねの検査実績

種別	1等	2等	3等	4等	等外上	等外下	計
裸麦			14	261	924	224	1441
小麦			78	483	150	13	724
なたね	1701	2553	1555	301			6110

34年産買入価格60K 新収90円加算

裸麦	2277	2247	2197	2107	1888	
小麦	2146	2126	2101	2011	1825	

(食糧事務所)

農指導員として田代村に駐在することになりまして、三年十一ヶ月の間皆様方の御協力によりまして大過なく過ぎまして戴きました。

(前 池田駐在技術員) 中宅間 隆男

◎夏野菜のつくりかた

玉ねぎは茎や葉のつけねから倒れてきたらよい天気にとつて四、五日乾燥し、茎葉がからからになったら二、四個づつ、結び合わせて涼しい風通しのよい場所につるすと八月頃までは貯蔵できます。

◎さやえんどうの種子

町で輸送園芸作物として大々的に取上げているさやえんどうは、収益も多し、昨年神川鳥浜等で大の成績をあげました。ところが輸送園芸としてはまだ、量が少なく、質もよくない。さやえんどうは、質もよく、量も多し、収益も多し、昨年神川鳥浜等で大の成績をあげました。ところが輸送園芸としてはまだ、量が少なく、質もよくない。